

言葉の使い方は難しい

労働者委員 下町 和三

孫、1歳3ヶ月。「あー」「うー」「まあま」「うんま」とか言葉を発する。

爺さん（私）や婆さん（つれあい）を呼ぶとき「あー」。抱っこして散歩する
と行きたい方を指さして「あー」。

気になるものがあると指さして「あー」。猫も犬も「わんわん」。

言葉がうまく通じないので、身振り手振り、泣いたり笑ったり、怒ったりして
全身で意思を伝えようとする。こちらも理解しようとする。

言葉の使い方は難しい。話し手と受け手の意思が交わろうとしていないと、う
まく伝わらない。同じ言葉でも、受け手の立ち位置や意識がどこに向いているか
で受け取り方が違う。

背の高い人に「あなた背が高いですね。」と言った場合、言われた相手は嬉し
いと思うか、嫌だと思うか。私からすると誉め言葉として使うが、背の高い人が
背の高いことをうれしいと思っているか、嫌だと思っているかは、人によって、
あるいは、時と場合で異なるだろう。

初めて会ったある青年男性、スマートで背が高い、身長が190センチくらい。
私は心中、バスケットボールかバレーボールをやっている人だろうと思い込ん
だ。言葉を選んだつもりで「背が高いと言われるでしょう。」と話しかけた。

彼は言った。「背が高いと何かスポーツをしていると決めつけて話をしてくる
人がいて、自分は迷惑なんです。」「自分は、ギターを弾いているし、ピアノも弾
きます。」彼は音楽家肌だったのだ。見透かされていた。

おびただしい数の、匿名の言葉の攻撃を受けて自殺に追い込まれた人がいる。

新型コロナウイルス禍でも、「コロナ」を心無い意味で使う言葉がある「〇〇
コロナ」とか。踏ん張る人たちへエールを贈る言葉もある「頑張れ、〇〇病院、
地元有志一同」とか。

言葉は使いよう。だが、使い方は難しい。労働相談でも、真意をくみ取り、気
持ちを前向きにする言葉を選びたい。